

「大阿蘇青少年ボランティアリーダー塾」事業報告書

事業推進専門職 松元 延行

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- (2) 期 日 平成 28 年 11 月 12 日 (土) ~ 13 日 (日) (1泊2日)
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 17 名 (高校生 : 2 名・大学生 14 名・一般 1 名)
- (5) 講 師 NPO 法人田舎のヒロインズ理事 藤原 美里 氏
WakuWaku OFFICE あそ Be 隊代表 薄井 良文 氏
中九州短期大学幼児保健学科教授 山口 昌澄 氏
- (6) 担当職員 松元 延行 (事業推進専門職) 三枝 ひとみ (企画指導専門職)
宮本 賀通 (事業推進係員) 渡辺 ゆかり (総務係担当事務補佐員)
- (7) 運営ボランティア 赤池 雄汰 (熊本大学 2 年) 内谷 夏貴 (熊本大学 2 年)
小林 桃菜 (熊本大学 2 年) 佐々木 美月 (熊本大学 2 年)
早田 佳織 (熊本大学 2 年)
- (8) 内 容 機構が定める「ボランティア養成共通カリキュラム (13 時間)」に基づき、先輩ボランティアが運営するワークショップや阿蘇の特性を生かした体験活動や安全管理の研修を実施した。

2 成果と課題

- (1) 成 果
 - 体験から学習を理解できるようワークショップ等を取り入れたことにより、参加者も積極的に参加することができた (事業全体満足度 : 満足とやや満足との合計 100%)。
 - 運営ボランティアが教育事業の紹介やボランティア活動の魅力を説明したことにより、参加者が今後のボランティア活動をより具体的に理解することができた (ボランティア満足度 : 満足とやや満足との合計 100%、未回答除く)。
 - 参加者アンケートにおいても、今後は子供達と交流するボランティア活動を行いたいという声もあり、法人ボランティアにも登録してもらうことができた (参加者 17 名全員が登録)。
 - 運営ボランティアが企画段階から参画し、アイスブレイクやプログラムの運営を行ったことで、先輩ボランティアとして今後のボランティア自主企画事業につなげるステップアップとなった。
- (2) 課 題
 - 高校生の参加割合が昨年度から減少した (6 名→2 名)。事業実施時期や広報方策に問題がなかったかなど原因を分析し、高校生の参加者数を増やす方策を考えたい。
 - 特定大学の特定学部生の参加者割合が多かった。次年度からその学部の入学者がいなくなるため、改めて広報方策を検討し、広く参加者を集める必要がある。
 - 一時 24 名の参加希望を伺っていたのに、直前のキャンセルが相次いだ。また、参加者も徹夜明けや短い睡眠時間で事業へ参加していた。参加者への連絡を密に行うとともに、事業スケジュールについても、体調を十分に考慮した時間配分を行いたい。
 - 新規に登録したボランティアの活動意欲を維持するために、早期にボランティア活動ができるよう配慮するとともに、パレアフエスタやボランティア自主企画事業など、活動機会の拡充できるようにしたい。

3 事業の様子



前日の運営ボランティアとのミーティング



運営ボランティアによるアイスブレイク



施設を理解するミッションウォークラリー



ボランティア活動についてのテーマ別トーク



野外調理



豚汁と高菜飯の完成



ワーク（ボランティア活動の魅力）



搬送法の演習